

このページでは、「いっしょに！ OSAKINI プロジェクト」と題して、2021年4月に設立された大崎町SDGs推進協議会（参画団体：大崎町、鹿児島相互信用金庫、株式会社そののまち、株式会社南日本放送、有限会社そおりサイクルセンター、合作株式会社）の活動をご紹介します。

いっしょに

OSAKINI PROJECT

VOL. 09

あっという間に、2021年度が終わりです。やり残したことはないですか？ 冬の間は寒さに負けて大好きな釣りに行けなかったの、暖かくなったら行きたいと思っています！ さて今月は、私たちが実施している視察対応について。住民の皆様へのお知らせもご紹介します。最後までお読みいただくと嬉しいです！



◀ 中垣る（なかがきる）
事務局 広報/PR担当
所属：合作株式会社

今までの視察の取り組みについて

先月号でも、多くの方々が大崎町へ視察にお越しになったことのお知らせしました。視察に来られた方は、遠くは北海道から鹿児島県内までの企業・自治体・大学生・大学院生、さらには高校生など様々。

企業や他の自治体職員の方、議会、自治会の方々の多くは「自分たちの地域や組織でも、大崎町のようなリサイクルの取り組みができないだろうか」と考え、その勉強にお越しになりました。学生さんは、大崎町のリサイクルの取り組みや、住民の方々の分別に対する意識を、卒業論文や研究のテーマに設定し、調査・学習のためにいらっしゃいました。

今後は、行政の方や学生さんはもちろん、分別しやすいモノや仕組みの開発のため、より多くの企業や研究者の方々が視察にいらっしゃる予定です。



住民の皆様の声に注目が集まっています

私たちも町外から大崎町に引っ越してきましたが、視察に来た方々とお話すると、大崎町の取り組みを改めて新鮮な気持ちでとらえることができます。

さらに、自分たちの生活や、ごみの出し方について「もっとこうなったらいいな」と考えるきっかけにもなります。また、視察に来られる方々の多くが関心を寄せるのは、住民の皆様の声です。「細かい分別について、実際どう感じているのか」「今までごみを出す際に苦労した点は？」といったふうに、長らく分別に取り組んできた住民の方々の意見や思いを知りたい方が、たくさんいらっしゃいます。

そこで、大崎町の実績や、これからの挑戦についてより多くの方々に知っていただくために、2022年からは「住民の皆様と一緒に大崎町の取り組みをご紹介します！」と考えています。